

E-10 集合住宅地の管理に関する研究(2)-ゴミ処理問題について

京都府大政 〇町田玲子

奈良大政 吉田洋子 今井範子 足田洋子 西村一朗 扇田 信

目的 集合住宅では、当初、「ダストシュート」と「焼却炉」によるゴミ処理方式がとられていた。その後、使用上の問題、収集上の問題が生じて、今日では、指定された日時に、ゴミの種類別に持ち出す方式がとられている。しかし、居住者の大半は、利用面では、従来の方式を評価しており、新方式にきりかえられたこの1~2年のうちに、新たな問題が生じてきている。本報告では、ゴミ処理方式の推移と、現状の問題点を明らかにし、今後のあり方への一資料とすることを目的としている。

方法 前報と同様である。

結果 従来の方式のもつ問題として、焼却炉使用上では、①煙害、悪臭 ②使用に伴う管理上の不徹底、などがあり、ダストシュート使用上では、③上階居住者にとっては、悪臭、害虫発生などにより、非衛生的、④収集関係者にとっては、作業がしにくい、などがあげられる。これらの問題を解消するために、居住者間で、種々のルールをとりきめ、ダストシュート方式だけは、継続させようとする動きもあった。今日の持ち出し方式の問題として、1)当初の設計では、ダストシュート方式に依存していたため、①各住戸の設備、階段、通路の中などの突で、機能的に適合していない。②ダストシュート廃止後の空間の活用が困難である。また、2)指定日時直前にゴミを出す必要上、①日中、留守がらの世帯、老人世帯などは、不便である。②直前に出さない場合、野犬や猫によって、厨芥類が散らし、非衛生的である。また、団地内に野犬が横行するきっかけともなり、危険でもある。などが、あげられる。